

## 文教おもやい保育園開園式および内覧会 報告

日 時：平成 29 年 3 月 29 日(水)10 時から 11 時

場 所：文教おもやい保育園保育室

(開園式終了後、内覧会)



平成 29 年 4 月 1 日より文教キャンパス内に開園する文教おもやい保育園の開園式を平成 29 年 3 月 29 日 10 時より執り行いました。

当日はあいにくの雨のなか、片峰学長、河野理事、井戸理事をはじめ、開園に向けてご尽力いただきました、多くの方々のご列席くださいました。4 月から保育園を利用する保護者や子ども達の姿もあり、50 名以上の方々を迎えての開園式となりました。

### 1. 学長挨拶 (片峰茂学長)



文教地区における保育園は長年の夢であった。昨年 5 月から内閣府の企業主導型保育事業助成を受けて、ゼロから始まり、10 ヶ月でこまできたのは、財務部や、短時間で場所を設置・施工につなげた施設部、元は教員の教室であったが、快く早期の移転に協力いただいた教員の皆様、執行部の河野理事、様々な力があつたからである。しかし、伊東センター長の決断と執念と突破力がもっとも大きかった。

また、多様性を大事にする職場はこれからの必須条件になる。この保育園の開園により、女性研究者にはもっと頑張ってもらいたい。そして、ダイバーシティは女性だけではなく、長崎大学には外国の先生や、留学生、障がいを抱えた方がいる。さまざまな多様性が集まって個性となり、初めて大学の教育研究も将来に向けて大きく伸びていくと思う。多様性が輝く、多様性が協調して頑張ることのできる大きな一つの装置が実現した。非常に大きな期待をかけている。安全で安心な運営を心がけてほしい。

### 2. ダイバーシティ推進センター長挨拶 (伊東昌子副学長)



長崎大学文教おもやい保育園の開園式を迎えることができ、本当に胸がいっぱい。大学在学時から今日に至るまで、長崎大学で学び働いてきた自分の人生の中で、子育てをしながら、診療・研究を継続していた時期が最も大変だったと思う。診療・研究に興味があつたと深くあつていくとき、そして、仕事をバリバリ覚えたいと思うとき、それと子育ての時期は、本当に不思議なくらい一緒に訪れてくるもの。本当に輝かしい時期で

あるが、時間との戦いでもあり、後輩に対しては自分が両立してきているという姿を見せなければいけないという負担もあり、仕事を続けられるだろうかと思ったことがなかったわけではない。

私と同じ経験をされた医師、研究者、職員の方、たくさんいらっしゃると思う。そういう方から、院内保育園を作って欲しいという声を聞き、病院長にお願いを続けて、河野理事が病院長で居らした時にあじさい保育園が開園した。男女共同参画推進センター長となり、文教キャンパスにも保育園をという声も多く、ニーズアンケートを実施、要望書を大学に提出した。

そのなかで、昨年夢のようなことが起きた。河野理事より5月15日（日）の朝8時頃、お電話があり、内閣府が企業主導型保育事業を始めるというニュースが飛び込んできた。情報収集して、長崎大学でも申請ができることがわかり、採択されて今日に至った。たくさんの障がい乗り越えて今日を迎えられた。

この間、たくさんの方のご協力を得て、支えていただいたことを感謝している。

毎朝保育園の前を通過して通勤するなか、この建物が少しずつ保育園らしい形に姿を変えていくのを見て、本当に嬉しくてたまらなかった。

文教おもやい保育園は、子どもの個性を尊重し、毎日新しい発見、出会いを体験し、みんなと仲良く遊び、健やかな成長を支え、そして、教職員が大切な子どもを安心して預けて、仕事、研究に専念できるよう、これからも一生懸命努めて参りたい。今日に至るまでのご支援ご協力に感謝。これからも支えていただきたい。



### 3. 委託先代表挨拶（重道代表）



企業内保育園の有用性は今、強く叫ばれている。しかし、一から新しいものを作るのは大変なこと。関係各位の仕事と子育ての両立できる環境をなんとか作りたいという思いの一念で今日の日を迎えることができたのだと思う。このような立派な施設をお作りいただき、これからはこの保育園にいかにか魂を入れるかというのが大事な部分だと思っている。

学長のお言葉のように、まずは子ども達の命を守るために、安心・安全の徹底を前提に考えながら、今後の運営で留意していきたいのは、どこまで相手の立場に立てるかということである。保育園ではこれまでのノウハウや経験をいかし、様々な教育プログラムを充実させるとともに、明日またこの保育園に来たいと思う保育園を是非作りたいと思う。お母様方にとって、両立はとても大変なこと。保護者の気持ちに寄り添って、一番の応援団になれるようにしたい。今後は是非、学生サークルなど、他にはない資源を活用し、連携を取って、大学らしい保育園をご相談しながら作っていききたい。片峰学長

や伊東センター長の思いを深く理解し、決意が更に強くなった。

今後課されるのは、どう結果を出すか。職員一同心を合わせて、おもやいに思いを込めて、集う場や集まりたい場であるように頑張っていきたい。

#### 4. テープカット（片峰学長、河野理事、伊東副学長、重道代表）



#### 5. 河野理事挨拶（河野茂理事）



学長のリーダーシップを中心として、一丸となって、保育園の設立に向かったからこそ、短期間でできた。学長や伊東先生のお話にもあったが、現場力、実行力があって、本当に泣きそうになりながら大変な中でやっとできた。

大学の保育園として、これから、大学らしい保育園にしたい。学生が学んで経験する場になってほしい。

まずは、安心安全の基本的なところ、働く人の健康管理が大切である。子どもも親も皆が守らないといけない。文教おもやい保育園を誇れる保育園にして頂きたい。

この保育園は、皆さんの力が結集してできたものと思っている。

記念撮影の後、内覧会を行い、4月より保育園を利用する保護者の方や、入園を考えている方など、熱心に見学をされました。お子様の中には実際に絵本を読んだり、おもちゃで遊んだり楽しんでいる様子が見られました。

